

武将と安中

今回は歴史上の有名人と安中の関わりを作品を通して紹介します。

安土桃山時代の武将・前田慶次は、関ヶ原合戦後に米沢30万石へ移封された上杉家を追い、伏見から中仙道・奥州街道を通じて米沢に向かいました。その道中の様子を綴ったものが『前田慶次道中日記』です。途中、坂本宿(近世の坂本宿とは異なる)に泊まり、そこで出会った女性の容貌や、坂本宿の様子を事細かに書き記しており、慶次の持つ観察力の高さや文化人としての一面を知ることができます。

独眼竜で知られる武将・伊達政宗は、碓氷峠を通ったおりに「夏木立 花ハウスイノ 峠カナ」と詠っています。仙台藩公式藩史『貞山公治家記録』によると、「慶長十九年四月四日条に政宗の娘婿・松平忠輝(徳川家康の六男)の居城、越後高田城の築城に向かう道中で碓氷峠を越え発句した」と記録されています。

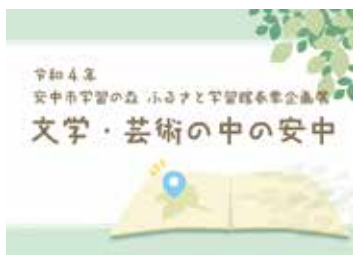
令和3年度
文化財愛護ポスター



優秀賞

第一中学校(1年)
加部 心菜さん

旧暦の4月は現在だと5月頃にあたり、政宗の目には木々が青々と茂り花も咲く夏の碓氷峠の風景が映ったのでしよう。



春季企画展
「文学・芸術の中の安中」

～7月4日(月)まで
ふるさと学習館市民ギャラリーで開催中(観覧無料)

学習の森 生涯学習施設
予約専用電話番号 開通

予約専用電話番号

☎027-388-0038

6月1日(水)から、生涯学習施設【予約専用電話番号】が開通します。生涯学習施設のご予約やお問い合わせはこちらの番号へおかけください。



おくれぎきはるなのうめがが
後開榛名梅香

連載 第2回

作：三遊亭円朝(1839～1900) 編集：学習の森

※学習の森で紹介のために編集したもので、原文とは異なります

主従の出会い(2)

「ここで商売するんじやねえと言っただろ！」

茶屋の店主が小僧を殴りつけると、小僧が売っていた菓子があたりへ飛び散る。すると飛び出したきた犬がむしゃむしゃと食い始めて、とても売り物にならなくなってしまう。

不憫に思った恒川は、犬の食った分まで、だめになつたまんじゅうの代金を小僧に与えてやった。「ありがとうございます。これで父や母が助かります。お礼にお泊まりの宿までお荷物を持たせてください」

と、小僧。恒川は構わないから帰れと断るが、従者の藤蔵が口を挟んだ。「旦那さま、どうせこの小僧は手ぶらで帰るのですから荷物を持たせましよう。おい、小僧。この包みには大事な書き付けと形見と、大根の味噌漬が入っている。大事に持て」

「でございますか」

「じいさん、お代はここにおくよ。旦那様、いま手ぬぐいをお持ちしますからお待ちください」

聞き返した小僧を気に留める間もなく、藤蔵は包みを縁台に置いて勘定を済ませたり主人の世話を焼いたり、忙しく出立の支度を始める。すると小僧が包みをつかんで脱兎のごとく逃げだした。「あっ、御伝書！」

「追え、藤蔵！」

包みには恒川が恩師の木曾川成瀬から授かった柳生流の伝書が入っている。逃げる小僧に追う藤蔵、やっとの思いで追いついた藤蔵は、小僧をねじ伏せて拳で殴りつけた。「こいつめ！」

すると物音を聞いて、あばら家から四十過ぎの女が乳飲み子を抱いて飛び出してきた。

「ああ、どうかおやめください。うちの子がどんな粗相をいたしましたか。まだ子どもでございます。どうか殴らないでくださいまし……」(つづく)

問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館 午前9時～午後5時(入館・ミュージアムショップは午後4時30分まで)
安中市上間仁田951 Tel. 027-382-7622 mail: furusato@city.annaka.lg.jp
【6月の休館日】6/7(火)、6/14(火)、6/21(火)、6/28(火)